

2015 年 5 月 吉日

医師会関係者の皆様方へ

2015 年度在宅医療助成公募(前期)
受付開始のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2015 年 4 月 1 日(水)より 2015 年度在宅医療助成公募(前期)の受付を開始しており、別紙のとおりご案内申し上げます。募集要項など詳細は財団ホームページをご参照ください。

なお、郵送案内の停止をご希望の方は、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

敬具

《同封資料》

- ①2015 年度在宅医療助成公募(前期)のご案内
- ②「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」ご案内

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-1
全共連ビル麹町館
TEL:03-5226-6266 / FAX:03-5226-6269 /
E-Mail:yuumizaidan@nifty.com
URL:<http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com>
事務局: 中山純彦, 磯崎慶, 中山恵美子, 菅野裕子



2015 年度在宅医療助成（前期）テーマ指定公募④

公募申請受付中

地区医師会の
地域包括ケアシステム構築のための
在宅医療推進事業

助成内容：	地域包括ケアシステムを構築するために地区医師会 が取り組む在宅医療推進事業を支援します。 ※申請者は地区医師会とします
対 象 者：	地区医師会
助成総額：	1,000 万円（件数 10 件 / 1 件あたりの上限 100 万円）
公募期間：	<u>2015 年 4 月 1 日（水）～5 月 29 日（金）消印有効</u>
研究期間：	1 年間（2015 年 8 月～2016 年 8 月末）

募集要項ならびに申請書はホームページ「助成」よりご覧ください。

<http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/main/jyosei.php>

※過去に助成した研究報告書はホームページに掲載しています

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

お問い合わせは事務局（TEL：03-5226-6266）助成事業担当：磯崎まで

在宅医療推進のための地域における 多職種連携研修会

かかりつけ医の動機づけ



多職種チームビルディングの促進

■ ご案内 ■

「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」は、国立長寿医療研究センターと東京大学高齢社会総合研究機構を中心に開発し、運営しているプログラムです。
広く全国に資料を提供し活用いただくとともに、各地からの要請に応じて開催支援を行っています。

■ 研修会のねらい ■

かかりつけ医の在宅医療参入の動機づけ

- ・ 地域医療の基本はかかりつけ医
- ・ かかりつけ医の在宅医療への参入が課題
- ・ 医師を含む多職種連携の普及が必要

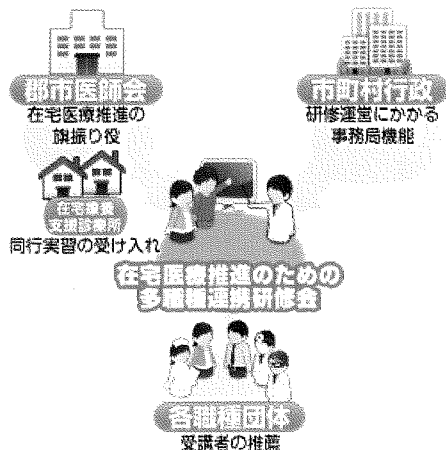
市町村単を単位とする多職種チームビルディング

- ・ 市町村は地域包括ケアの単位
- ・ 市町村における連携ルール作りと顔の見える関係形成の土台をシステムとして整備する必要
(熱心な個人の取り組みだけではシステムにならない)

■ 研修会の特徴 ■

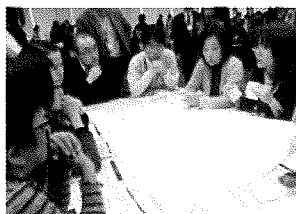
構造

- ・ 郡市医師会と市町村による共催
- ・ 地域の関係職種団体による受講者推薦
- ・ 同一市町村の多職種が受講対象

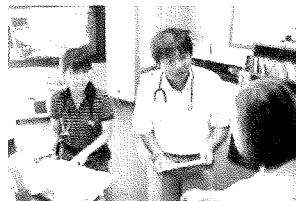
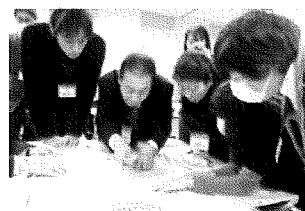


内容

- ・ 多職種によるグループワークを多用し、講義による学習は最小限に
- ・ 医師は訪問診療への同行実習



多職種によるグループワーク（事例検討、地域資源マッピングなど）



同行実習（訪問診療）



地域単位の連携の機運の醸成

詳しくは、ホームページをご覧ください
<http://chcm.umin.jp/education/ipw/>

■ 研修会開催例と受講者・開催者の声 ■

開催例

○多職種研修1.5日＋同行実習2回

1日目（午後半日）	同行実習	2日目（終日）
在宅医療が果たすべき役割（講義、30分）	訪問診療同行（実習、2～3時間）	在宅医療の導入（講義、20分）
在宅療養を支える医療・介護資源（講義、20分）	多職種同行（実習、2～3時間） ※訪問看護、ケアマネジャーなど	訪問診療の実際と同行研修の意義（講義、20分）
医療・介護資源マップの作成（GW、40分）		在宅医療が知っておくべき報酬や制度（講義、20分）
なぜIPW（専門職連携協働）が必要なのか？（講義、20分）		認知症（講義＋GW、100～120分）注
がん緩和ケア（講義＋GW、100～120分）注		在宅医療を推進する上での課題とその解決策（GW、90分）
		目標設定、発表（その他、20～30分）
		修了証書授与（その他、10分）

○多職種研修1.0日＋同行実習

1日目（終日）	同行実習
在宅医療が果たすべき役割（講義、30分）	訪問診療同行（実習）
なぜIPW（専門職連携協働）が必要なのか？（講義、20分）	
認知症（講義＋GW、100分）注	
がん緩和ケア（講義＋GW、100分）注	
在宅医療が知っておくべき報酬や制度（講義、20分）	
訪問診療の実際と同行研修の意義（講義、20分）	
在宅医療を推進する上での課題とその解決策（GW、90分）	
目標設定、発表（その他、20～30分）	
修了証書授与（その他、10分）	

受講した医師の声

- もともと訪問診療を多数行っていた医師
「実践を系統的に振り返る機会になった」
「診療所運営やスタッフの動きといった点で学びを得た」
- 臨時往診や少数の訪問診療は行っていた医師
「訪問診療の枠を拡大しつつ、外来とのバランスを考えていきたい」
「午後から診療所を出て在宅へ行く」
- これまでほぼ往診をすることのなかった医師
「外来患者が通院困難となったときに訪問診療を提供したい」
「（自分は往診をしないとしても）頼める相手（医師や多職種など）がいるということが分かった」

研修開催事務局（開催予定の地域を含む）の声

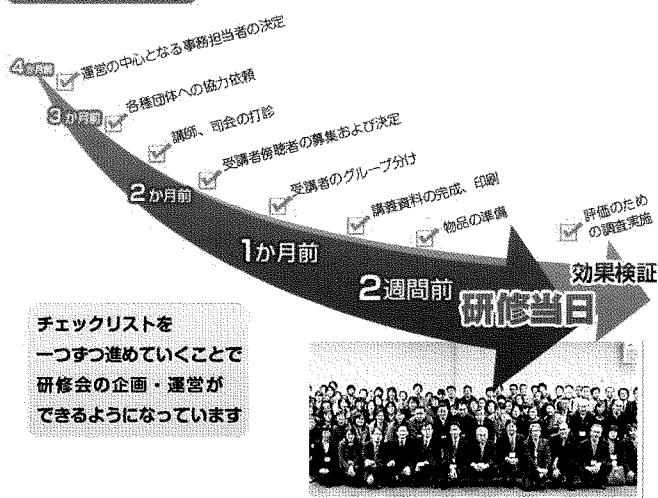
- 「資料が揃っているのでも、一から作らなくて済む。」
- 「全部を真似しなくても一部だけでも活用できる」
- 「（研修運営ガイドについて）関係団体を集めて研修会について議論を始める材料として活用できそう」
- 「『全国的にこういう流れがあるから』と言えるので地元関係者への説明がしやすい」
- 「多職種の会合に、医師に出てきていただけるきっかけとして活用できそう」

■ 研修会開催支援ツール ■

研修運営ガイド

- ・ 国立長寿医療研究センター／東京大学高齢社会総合研究機構／日本医師会／厚生労働省による共同名義
- ・ 研修開催事務局が手順書として活用できるよう、研修の企画・運営の流れをチェックリスト形式でまとめたもの
- ・ 開催日程に応じたパターンも例示

運営ガイドの内容



ホームページ

- ・ 研修プログラムの概要や紹介映像を掲載
- ・ 研修の講師となる方が活用できる資料を収載（講義スライド、読み原稿、動画など）
- ・ テーマ別の120分構成のコンテンツ（講義＋グループワーク）を整備
→地域のニーズに応じて研修内容のカスタマイズが可能（認知症、がん緩和、摂食嚥下・口腔ケア、栄養、リハビリテーション、褥瘡など）
- ・ 事務局が活用できる、研修運営ガイドや、使用様式（依頼状など）の一式を収載
- ・ 各地で開催された研修会の内容や様子を掲載
- ・ 傍聴可能な研修会を紹介

<http://chcm.umin.jp/education/ipw/>

効果検証支援

- ・ 東京大学高齢社会総合研究機構／医学部在宅医療学拠点では、評価アンケートを受講前／直後／1年後／2年後と実施（地域間比較が可能）
- ・ 意識変化のほか、医師に対しては診療報酬の算定状況の変化を調査し、行動変容を追跡

【研修会開催に関する問合せ先】

東京大学高齢社会総合研究機構／医学部在宅医療学拠点 在宅医療研修事務局
Mail : homecare_info@iog.u-tokyo.ac.jp Tel & Fax : 03-5800-9542
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1東大病院内 在宅医療学拠点